小さな友達と歩む未来

浜松市内小学校
石野さん

私が散歩に出かけるたびに出会う小さな友達は、近所の田んぼに住む白サギです。引佐の広い夕焼け空は、ピンクから青むらさきへとゆっくり色を変えていきます。その空を白い羽がゆったりと羽ばたき、緑のいねの間からひょっこりと顔を出すすがたは、何度見ても心がほっとします。私にとっては散歩仲間のような存在で、そのすがたを見るのが毎日の楽しみです。

ところが、ある夏の日、ふと思いました。「そういえば、最近サギを見かける日が少ないな…」と。気になって調べてみると、静岡県のレッドデータブックという本に、一部のサギが絶めつきぐ種に指定されていると書かれていました。しっ地や田んぼが減っていることが原因の一つだそうです。私の町でも、自然の景色が少しずつ変わり、サギたちのくらしにえいきょうしているのかもしれません。

「このままでいいのかな」と思った私は、自分にできることを始めることにしました。愛鳥週間には、田んぼにキリッと立つサギの絵をかいたポスターを作りました。それから、浜名湖クリーン作戦にも参加しました。湖の岸には、波に打たれてくしゃくしゃになったビニール袋や、色あせたペットボトル、たばこのすいがらなどが落ちていました。たった一時間でごみ袋はいっぱいになり、持ち上げたときにうでが少しふるえるほど重くなっていました。「これだけのごみがなくなれば、水辺の生き物もきっとすごしやすくなるはずだ」と思いました。

作業を終えて帰ると中、田んぼの上を白サギがゆっくり羽ばたき、朝日に染まった空を横切っていきました。羽の先がほんのり金色に光り、そのかげが水面にやわらかくゆれて映っていました。その光景は、まるで「ありがとう」と言ってくれているように見えました。

自然を守ることは、サギたちだけのためではありません。水辺の生き物が減れば、川や湖の水がよごれやすくなり、農業や漁業にもえいきょうします。それは、私たちのくらしにもつながっているのです。環境のことは、遠い世界の話ではなく、私たちのすぐそばにあります。私は中学生になっても散歩を続け、川やサギの様子を写真や絵で記録していきます。そして、家族や地域の人たちに、自然の大切さを少しずつ伝えていきたいです。

今日も散歩のと中、白い羽を広げて飛び立つ小さな友達を見上げました。その羽は、赤からオレンジ、ピンク、むらさきへととけていく

夕空の中で、いちばんかがやいて見えました。むねのおくがじんわりと熱くなり、私はその光景を心にしっかりと刻みました。

「この町をきみたちがいつでも帰ってこられる場所にするね。ずっと、ずっと。」